

# 種々

岩木山虹農園 便り 35号

発行元 岩木山虹農園  
 弘前市 葛原字大柳 171-1  
 TEL 090・3757・8174  
 Email oiwaki2021@outlook.jp  
 文責 前田 尚人

十月十六日から始めた稲刈りでしたが、途中秋の長雨もあり中断し、その他トラブルがあつて十月二十四日に終了しました。コンバインが夜の移動で見えなかつたりんご園のワイヤーに引つ掛かり、一部破損したため作業が中断してしまいました。痛恨のミスですが、急いだり焦つたりするところなるのだなど、この年齢になつてあらためて深く反省しています。

早めに刈り取つて米穀店に納めお米は、収量は少ないものの出来がいいという知らせが来て、ほつとしていきます。



## 第十回 配達

### 渋抜き平核無柿 (老木です)

柿の種類は様々ありますが、津軽地方では四角柿とも呼ばれるこの渋柿が主流です。渋抜きにはアルコール五十度のウキスキーを使用しています。気温が高く軟らかくなつてしまいました。糖度は十六度前後です。

### 松島新二号白菜 (自家採種五年目)

1943年宮城で誕生。結球がまだ完全に終わっていないのですが、まずは第一弾です。漬物、煮物、鍋物。奥秋の味わいを楽しんでください。

### 黒田五寸人参 (自家採種五年目)

どこの種屋さんでもこの人参の種を置いています。固定種はなかなかありません。香りがいいです。

### のらぼう菜 (自家採種九年目)

江戸時代初期に、各地で栽培されていたそうです。耐寒性に優れ、人々を飢餓から救つたという記録があります。秋植えして晩秋に葉を食べ、春に茎が出たらそれもまた食べられます。茎の方が美味しいという声もあります。今は炒めたり、おひたしにして葉の甘さを味わつてほしいと思います。

### 大野紅かぶ (自家採種二年目)

明治時代に青森県から道南に持ち込まれた系統の赤かぶと言われています。煮物に使うもよし、甘酢漬けにするもよし。

甘酢漬けは一週間ほど屋外に干したカブを洗い、量が少ないので千切りにして容器に入れる。

塩・砂糖・酢 2:1:10 5で合わせた調味液を注ぎ重石をする。年末ごろから食べ時です。

### 中葉春菊 (自家採種五年目)

鍋物、炒め物にご活用ください。

### ピッコロシントウ (自家採種三年目)

### どちらか

### 宮重総太大根 (自家採種五年目)

### 大蔵大根 (自家採種五年目) 四、

### 三浦大根 (自家採種五年目)

※さつまいもは収穫しましたが熟成中です。次回配達します。

### 第十一回配達予定 十一月十日(金)

### 品目予定

- ・ ササシグレ (白米)
- ・ 亀の尾 (白米)
- ・ 白菜
- ・ さつまいも
- ・ 南瓜

他

## 声を聴く 個性を伸ばす

お米、野菜。果樹の成長を見ていると、当たり前のことですがそれぞれに個性があります。芽吹きから枯れて土に帰る所まで見守ることができず。毎年さまざまな植物の一生を観察すると興味深いのです。

芽が出ると地上の世界を見渡して腕を伸ばしすつくと立ち上がり。みな独自の言葉と意思をもって生き、それぞれの結実を残して次の生に託します。終わりに最高の実をならせるお手伝いをするのが百姓の仕事です。注意を払って植物の「声」を聴き、成長のお手伝いしているつもりなのですが、「ああ聴き逃したな」「聴いたのに後回しにしたな」と毎年反省があります。

最近小学校教員の方に、「どんな先生が学校にいてほしいですか。」と聞きました。「一生懸命張り切る先生より、子どもが求めていることをよくわかり、子どもに寄り添う先生です。」という言葉が返ってきました。子どもをの願いを尊重し個性をそのまま伸ばし、自律に向けた手助けをする。農の話なのか教育の話なのかわからなくなりましたが。



芽生えたんにく





若木の柿の木



老木の柿の木と岩木山

青い柿は葉に隠れて姿が見えないので、晩秋になると突如としてオレンジ色の鮮やかな実が存在を主張します。やっぱり秋空の下、柿を食いながら鐘の音が聴きたいなあ。しみじみと時をかみしめる季節ですね。



雨のため、稲刈りを中断しなければならなかった時の写真。  
田畑と生き物を見守り、時にはきびしく叱咤する津軽の人々の神様のような岩木山。いつもは気づいていないのですが、虹は水と光が世界に満ちていることを知らせてくれます。希望のアーチなんだよなあ。  
岩木山に架かる虹を見ながら、なんて素晴らしい世界にいるのだろうと、勝手に幸せになることがしばしばあります。

稲刈りが終わりに近づき写真を一枚。わたしのことを知らずに「野菜の配達」を購入してくださった方に自己紹介するのをすっかり忘れていました。私は六十三歳、男性。百姓。大学教員の妻、独立した子どもが二人います。  
左の写真は、収穫の安堵感と収量が少ないことで疲れが見えますねえ（笑）。運よく病気もなく元気なので、小さいことでよくよせず、野菜やお米を食べる皆様においしいと言っていただけのように、これからも楽しく農業を続けます。

